

令和6年度 事業計画

学校法人 大阪成蹊学園

I. 大阪成蹊学園の全体方針

1. 大阪成蹊学園の概要

大阪成蹊学園は昭和 8（1933）年に創立された、91 年の歴史を持つ総合学園です。現在、傘下に大阪成蹊大学、大阪成蹊大学大学院、びわこ成蹊スポーツ大学、びわこ成蹊スポーツ大学大学院、大阪成蹊短期大学、大阪成蹊女子高等学校、大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園を擁し、在籍者数約 7,700 人、専任教職員数約 640 人、卒業生総数約 135,000 人の規模を誇る伝統と実績のある総合学園です。

（1）建学の精神

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」は、司馬遷の『史記』に由来する故事成語で、「桃や李^{すもも}は何も言わないが、その美しい花や実^{こみち}にひかれて人が集まってくるので木の下には自然と小道（蹊）ができる」という意味から、徳が高く尊敬される人のもとには多くの人が集まってくるという譬えです。このように徳があり人に慕われ信頼される「人間力」を備えた人を育てることを教育の基本目標としています。

（2）行動指針 「『忠恕』の精神」

「忠」は誠実、「恕」は思いやりを表わし、誠を尽くし人の立場になって考え行動するという意味です。建学の精神を実践するにあたっての行動指針としています。

（3）教育の基本理念

建学の精神「桃李不言下自成蹊」、行動指針「忠恕」に基づく、真に「人間力」のある人材を育成します。

（4）人間力の定義

建学の精神で掲げた教育の基本目標である、「人間力を備えた人材の育成」を実践するにあたり、本学園では以下の通り「人間力」を定義しています。

- ① 強い身体・柔軟な心を持ち、生命力豊かな人
- ② 「読む」「書く」「話す」などの基礎能力を十分保有している人
- ③ 人と円満に話しつつ、かつ迎合しない主体性・独自性を持っている人
- ④ 世界を鳥瞰し、広く大きく物事を捉えた適切な判断基準や問題解決ができる人
- ⑤ 強い好奇心や向上心を持ち、劣悪な環境をも克服する強い心を持つ人
- ⑥ 人に対する深い理解と忠恕の心を持ち、人との絆を大切にする人

2. 学園運営の基本方針

令和 5（2023）年度に学園創立 90 周年を迎えた大阪成蹊学園では、「学園創立 90 周年記念事業」として、大阪成蹊大学に令和 4（2022）年度に国際観光学部、令和 5（2023）年度に看護学部及びデータサイエンス学部を開設し、文系・理系・芸術系の揃った 6 学部の総合大学へと発展するとともに、阪急電鉄相川駅前^前に新キャンパスを整備しました。令和 6（2024）年度の事業計画において

は、「大阪成蹊学園長期経営計画」に基づき、理事長・総長、学園各校の長のリーダーシップの下、建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材の育成を目的とする全学的な教育改革と、安定的な法人・学校運営を可能にする経営基盤・ガバナンスの強化に取り組みます。また、2030年社会を見据えた将来構想の策定や、想定される様々なリスクや非常時に対応する危機管理体制の構築に努め、社会から信頼され、選ばれる教育機関をめざしてまいります。

II. 教育部門の基本方針

高等教育機関

1. 各大学・短期大学における「LCD 教育プログラム」の全学展開

各学部等において想定する進路で必要となる専門性ととともに、人間力の基盤となる「リテラシー (Literacy)」「コンピテンシー (Competency)」「ディグニティ (Dignity)」の3要素を統合的に育む「大阪成蹊 LCD 教育プログラム」を展開します。令和6(2024)年度においても、大阪成蹊学園教学改革FSD会議及び、各教学改革プロジェクトを中心として、以下に記載する(1)教育課程・教育内容の充実、(2)教育方法の工夫、(3)学修成果の可視化、(4)FD・SD研修の充実、(5)高大接続改革、(6)学生指導の充実・徹底、(7)教学IRの充実の7つの観点からプログラムを更に強化し、学生の「人間力」を高める「LCD 教育プログラム」として体系的な教育活動を展開します。

(1) 教育課程・教育内容の充実

① 初年次教育・キャリア教育を核とする全学教育の実現

SDGsターゲットや社会課題を題材にアクティブラーニングの基礎を身につける初年次科目や、企業や自治体等の抱える課題に対して協働して課題を解決するPBL授業、様々なゲストスピーカーの招聘などにより、社会との接点を豊富に持つなかで人間力を高める全学教育を展開する。

② 全学的なAI・数理・データサイエンス教育の構築及びDXの推進

Society5.0の到来への対応として、データサイエンスやAI、統計に関する科目を教養科目群に配置し、全学的なデータサイエンス人材の育成をめざす。

③ 英語・グローバル教育

国際観光学部や教育学部中等教育専攻英語教育コースにおける、TOEIC対策をはじめとする英語教育の強化を図るとともに、留学や国際交流、各グローバル教育プログラムの充実を図る。

④ 専門演習(ゼミ)、卒業研究・卒業制作の充実

卒業研究・卒業制作に向けた学生の学びの質を一層高めるため、ガイドラインの配布や評価ルーブリック、ポートフォリオの導入、卒業研究発表会の開催などにより、組織的・体系的な指導体制の充実を図る。

⑤ 産・学・地の連携による教育研究の充実

学外連携学修ポリシーやガイドライン、事例集を活用し、産業界や自治体等、実社会との関わりの中で専門性を深める学外連携授業の量的・質的拡大を図るとともに教育内容の充実にも努める。

⑥ インターンシップ制度の充実

インターンシップを組織的に推進し、適切な企業等とのマッチング、事前・事後を含む実習指導や実施後の報告会の開催などにより、より成長実感の持てるインターンシップ制度を構築する。

- ⑦ 大阪成蹊大学における収容定員増
令和 6（2024）年度より大阪成蹊大学芸術学部造形芸術学科の入学定員を 220 名から 240 名、収容定員を 894 名から 974 名に増員する。また定員増に対応するため令和 6（2024）年度に芸術学部の専用校舎である南館を増築し、教育環境のさらなる充実を図る。
- ⑧ びわこ成蹊スポーツ大学における新コース編成および新カリキュラムの整備
令和 6（2024）年度より、従来の 6 コースから 3 領域・8 コースにおける新カリキュラムへと進化させ、時代や社会の変化に柔軟に適応し、求められる人材を育成する教育体制を整備する。
- ⑨ 大阪成蹊短期大学における新コースの開設
令和 6（2024）年度より生活デザイン学科にイラスト・アニメ・デザインコースを開設し、教育環境・教育体制の充実を図る。

（2）教育方法の工夫

- ⑩ 全学的なアクティブラーニングの推進
本学独自のアクティブラーニングハンドブックや好事例集、各授業におけるアクティブラーニング実施計画書の作成、FD 研修会や授業相談会の開催等により、組織的なアクティブラーニングの推進による学びの充実を図る。
- ⑪ シラバスの一層の充実
シラバス記載項目の充実と入力フォームの改訂、手引きの作成、研修の実施、シラバスチェック体制の確立等により、学生にとって一層分かりやすいシラバスを作成する。
- ⑫ 授業評価アンケートの活用
全ての授業で授業評価アンケートを実施し、各教員が授業実施報告書又は授業改善計画書を作成している。アンケート結果を踏まえた授業実践の検証・改善を図るプロセスを明確にして授業評価アンケートを適切に活用し優れた授業実践に努める。
- ⑬ 適切な成績評価の実施
成績評価ガイドラインの導入、プレゼンテーションやレポートの評価におけるモデルルーブリックの開発等により、成績評価の著しい偏りの解消をめざすとともに、GPA に関する規程の整備と活用方針の策定などにより、GPA 制度の実質化を図る。また半期ごとに GPA の分布を様々な観点から検証し、適切な成績評価の実施に努める。

（3）学修成果の可視化

- ⑭ 学修成果の可視化
コア科目における到達度評価のあり方を明確にして、学生の成長・変化を可視化するとともに、教育改善の PDCA の実質化を図る。
- ⑮ 学修成果を発揮する各種大会・コンペティションの充実
プレゼンテーション大会「成蹊カップ」、未来展望レポートコンテスト、SDGs ビジョンレポートコンテスト、卒業論文発表会、卒業制作展、ファッションショー、作品展、英語プレゼンテーション/暗誦大会、小論文コンテスト、読書コンクール、ビブリオバトル、ピアノコンペティション、スポーツデータ分析・ムービーコンテストなど、様々な大会・コンペティションを開催し、学修成果を発揮する機会を充実する。

(4) FD・SD 研修の充実

⑯ 体系的な FD プログラムの展開

FD 委員会を中心として、全学的な教学改革の方向性を踏まえつつ、各プロジェクトとの連携のもと周知徹底や技能開発のための様々な FD プログラムを計画し、実施する。

⑰ 体系的な SD プログラムの展開

全学 FSD 研修会や各種会議・トップミーティングを通じた On the Job Development、各部門別の SD 等により、教職員の職能を高める。

⑱ 教員表彰制度の充実

優れた授業実践を行っている教員を表彰し、教育力の高い教員を顕彰するとともに、表彰授業における授業実践の工夫の共有を図っている。さらに、研究や学部運営など教育以外にも様々な表彰分野を設け、教員表彰制度の充実を図る。

(5) 高大接続改革

⑲ 高大接続改革の実現

受験者の資質・能力を多面的に評価することのできる新たな面接試験方法（面接票、質問表、評価ルーブリック等）を開発し、よりアドミッション・ポリシーに沿った入学者の選抜を行う。

⑳ 高校生の英語力の向上

高校生を対象とした英語プレゼンテーションセミナー・コンテストを大学で開催することを通じて、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。

(6) 学生指導の充実・徹底

㉑ パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトの推進

テキスト「品格と人間力」やマナーDVD を作成し、教育課程内外での指導を通して個々の学生の品格と人間力を高めるパーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトを展開する。

㉒ ラーニングコモンズの活性化

授業時間外での学習スペースや学習相談機能の充実、様々な学習講座の開講による正課外での学習環境の充実をめざすとともに学生の積極的な参加を促す。

㉓ 「スポーツ強豪校化」に向けたクラブ改革（びわこ成蹊スポーツ大学）

各クラブにおける外部指導者充実等による競技力及びガバナンスの強化を図るとともに、クラブが求める活動体制の充実と環境整備を行う。

(7) 教学 IR の充実

㉔ 教学 IR の充実

全学的な教学改革の成果・内部質保証の達成状況の検証を行うため、PROG テストや卒業時アンケート、卒業生を対象にしたアンケートや就職先企業等を対象としたアンケート、在学生を対象にした学生生活調査アンケートや文部科学省による全国学生調査などのアセスメントの徹底を通して、教学データの恒常的な収集・分析・報告に努める。

2. 学修や学生生活の満足度向上に向けた学生支援の充実

(1) アドバイザー・チューター教員・担当職員・保護者との連携による学生の学修状況・学生生活状況の把握と個別の学生支援の充実

(2) クラブ、サークル、ボランティア、学会、コンペティションなど学びにつながる課外活動の実施

(3) 各センター等における学生支援の充実

以下の各センター等において、学生支援の充実を図る。

① 学生支援センター

学生生活・人間関係の不安や、一人暮らしの相談など、広範囲に学生をサポート

② 留学生支援センター

各種申請手続き、授業の履修指導、日本語学習サポートなどの修学支援などを通して、留学生の学生生活をサポート

③ 教育研究支援センター

資格取得や対策講座などにおける活動をサポート

④ 教育保育実習支援センター

教育実習、保育実習、施設実習、介護等体験の学外実習の充実と学生の実習をサポート

⑤ スポーツ&カルチャーセンター

学園のクラブ活動を積極的にサポートするとともに、スポーツ振興や文化事業の実施による地域連携、高大連携に関する事業をサポート

⑥ スポーツセンター（びわこ成蹊スポーツ大学）

学生の課外活動の支援やトレーニングをサポートするとともに、産官学連携及び地域連携に関する事業をサポート

⑦ アウトドアスポーツセンター（びわこ成蹊スポーツ大学）

自然環境を活かしたスポーツ活動、地域貢献事業およびスポーツ科学に関する調査・研究を実施

⑧ 英語教育センター

英語学修に力を入れる学科等の学生を中心に正課外での英語学修に関する個別指導を実施

⑨ 国際交流センター

特色ある海外研修や交換留学など学生の海外での学びをサポート

⑩ 産官学・社会連携センター

官公庁や企業と連携したアクティブラーニングや PBL 学修の環境を整備するとともに、高等学校との効果的な高大連携プログラムを展開

⑪ 音楽教育センター

音楽教育の充実を図るための企画・運営や、学生のピアノ演奏技術の習得を指導

⑫ 教職キャリアセンター

教員採用試験対策のアドバイスができるセンタースタッフが、小中高教員・保育者をめざす学生をサポート

⑬ キャリアセンター（びわこ成蹊スポーツ大学）

キャリア形成支援及び就職、進路支援を行い、教職、公務員、企業就職それぞれにコアチームを

結成し、専門スタッフが就職をサポート

⑭ 学習相談室（びわこ成蹊スポーツ大学）

就職に必要な基礎学力の向上や、夢に向かって自発的・意欲的に学習したい学生の学びをサポート

⑮ ラーニングコモンズセンター

授業課題や学修相談、就職に向けた基礎学力や SPI テスト対策に係る学習まで、幅広い学びをサポート

⑯ 学生医療相談（びわこ成蹊スポーツ大学）

アスリート特有のスポーツ障害への対応からリハビリ・予防法・栄養指導など、競技者としての生活をサポート

⑰ 学生相談（カウンセリング）室

カウンセラーによる、学生の心の悩みへのカウンセリングを実施

⑱ 障がい学生支援室

障がいのある学生が適切な支援を受け、円滑な学生生活をおくることができる体制づくりを推進

⑲ 保健センター

定期健康診断の実施、疾病の早期発見、健康相談など、学生の健康管理や健康増進のサポートや、関連部署と連携した新型コロナウイルス感染症対策の推進

⑳ 看護実践地域連携センター

地域における看護実践教育を充実し、地域に貢献する看護人材の養成をめざして地域連携を推進

㉑ データサイエンス研究教育連携センター

企業や自治体等とのデータサイエンスに関する共同研究や、学外の教育研究機関とのデータサイエンスに関する学術的な交流を促進

3. 学生の就職支援及び進学指導の推進

(1) キャリア支援

- ① 学部、学科の特色に合わせた就職指導・支援の強化
- ② 教職協働による就職進路指導・支援体制の強化
- ③ 就職のための資格取得の促進
- ④ 就職希望者別の対策講座の充実
- ⑤ 教職キャリアセンター・キャリアセンターとの連携による教員採用試験対策の充実
- ⑥ キャリア意識醸成に向けた年次別ガイダンスの開催
- ⑦ 学内企業セミナーの充実
- ⑧ インターンシップの充実のための受入企業開拓

(2) 企業開拓・広報活動

- ① 企業との関係強化による就職先の拡大と質の向上
- ② 企業開拓強化による学生と企業とのマッチングの活性化
- ③ 卒業後の追跡調査等卒業生とのネットワークの形成
- ④ 学園内合同企業説明会の強化

4. 研究の推進

- (1) 研究紀要の充実
- (2) 学会等での研究発表、論文投稿の推進
- (3) 科学研究費補助金等の外部資金獲得の推進
- (4) 共同研究の推進
- (5) 学部増設に伴う研究者増への支援体制の強化

5. 教職協働の推進

- (1) 幹部教職員が関わる経営会議等重要会議の推進
- (2) 若手教職員及び幹部教職員による、教学改革プロジェクトチームの組成と活動の強化
- (3) 本部長制による責任の明確化と体制の強化

6. 広報活動・募集広報の充実

- (1) 教育力の高さや教育成果に関する広報の強化
- (2) 多面的・総合的な入学者選抜の実施
- (3) 高校・塾・予備校の訪問および説明会、オープンキャンパス等での募集広報の強化
- (4) ホームページ・SNS・各種ウェブ媒体等を活用した広報力の強化

7. リスク管理の強化

- (1) 自然災害、事故、感染症等公衆衛生に関わる緊急事態、情報漏洩、ハラスメント、SNSによるトラブル等「25の重要リスク項目」の制定に伴う危機管理体制の強化、並びに危機管理マニュアルの周知徹底
- (2) 重要リスク項目に関する監査の徹底によるトラブル発生リスクの防止、並びに教職員への学園リスクの周知による危機管理意識・コンプライアンス意識の徹底

大阪成蹊女子高等学校

大阪成蹊女子高等学校は女子教育に特化し、キャリア教育及び建学の精神を踏まえた人間力の育成を目指す教育を強固に推進しながら、個々の生徒に応じたきめ細かな教育支援により生徒の成長を育みます。これからの社会で活躍できる人材育成をめざし、以下の4点を令和6（2024）年度事業運営における基本方針とします。

（1）学校教育力の向上（建学の精神に基づく人間力教育の推進、教育の質向上に向けた改革の推進、グローバル教育の推進）

- ① 令和6（2024）年度新たに「英語コース」を開設し、本学の特色であり強みである多彩な2学科8コースの教育内容を更に充実
- ② 本学の特色であるキャリア教育、全コースで実施の「キャリアデザイン」科目の他、コース行事・学校行事において人間力（社会人基礎力）育成を強化
- ③ GoogleClassroom やスタディサプリなどのICT活用による学習機会の充実
- ④ 入学時にiPad購入を全員に依頼し、学力の定着に向けた多様な指導法の展開を強化
- ⑤ 評価育成制度や授業アンケートの実施、優秀教員表彰制度により指導力強化を図り、生徒の学力を向上
- ⑥ 海外修学旅行や海外提携校との交流、ユネスコスクールとしての取り組みなど、グローバルなキャリア教育の推進
- ⑦ ALTを活用した少人数制英語教育、1年生対象の放課後「ベルリッツ英会話教室」の実施による英語力の向上に加え、令和6（2024）年度開設の「英語コース」での英語教育実践を通じて、英語授業のさらなる充実を図る
- ⑧ 「音楽コース」所属生徒の希望する進路実現をめざし、令和3（2021）年度に竣工の音楽棟を有効に活用し、更なる音楽教育を推進
- ⑨ 令和3（2021）年度開設の「看護医療進学コース」の学びの充実をめざした教科指導を強化

（2）生徒募集の推進

- ① 充実したオープンスクールで募集広報を更に強化
- ② 併設大学・短期大学の学部学科・コースへの接続をアピールし、進路保障の観点で内部進学の高位性を鮮明にした広報を展開
- ③ 2学科8コースの幅広い学びと特色を明確化した広報を展開

（3）学園内連携の促進

- ① 各コースのカリキュラムと連動させた1年次からの学園内連携授業を充実
- ② 内部進学率及び高校の教育力を高め、募集広報戦略に繋がる学園内連携事業を推進

（4）生徒指導の強化

- ① 多様化する生徒の課題に対応する全教員の生徒指導体制を強化
- ② 生徒のカウンセリング強化を図るためカウンセラー及び養護教員の複数配置を維持
- ③ 課外活動の活性化に向けた支援体制の充実およびスカラシップを活用した生徒募集

大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園

こみち幼稚園は、楽しい「遊び」を通して、幼児の心情・意欲・態度を育みながら、「強く明るく考える子ども」を育成することを教育活動の目標とし、以下の7点を令和6（2024）年度事業運営における基本方針とします。

- (1) 3歳児定員70名の確保に向けた園児募集の強化
 - ① ポスター・チラシ・ホームページ・SNS等の広報活動の強化
 - ② 園見学の内容の充実、未就園児向け教室の開催
 - ③ 新設マンションの多いエリアにおける広報強化およびバス経路の見直し

- (2) 施設型給付幼稚園への移行手続きの検討
規模に合わせた適切な補助金制度への対応

- (3) 保育内容の質の向上
 - ① 心の教育・人権教育の充実
豊かな情操や思いやり、生命を大切にする心、道徳性や善悪の判断に繋がる力を育む保育実践の追及、および定期的な人権研修会の実施
 - ② 健康・安全教育と保健室機能の充実
養護教諭を中心とした保健衛生管理、安全に関する研修と避難訓練、感染症防止対策の実施
 - ③ 食育の推進
幼児の実情と配慮点の検討にもとづく給食指導、および短期大学栄養学科との連携推進
 - ④ 自然環境と体験学習の充実
季節感のある環境を構築し、幼児の身近な動植物に対する関心を積極的に促す保育の実践
 - ⑤ 音楽・運動・造形表現遊びの充実
運動遊びを展開できる遊具などを準備し、自然・音楽・絵画等との出会いを促進
 - ⑥ 大学、短期大学、高校との連携プログラムの推進
大学教育学部、短期大学幼児教育学科及び高等学校との連携の推進、幼児や学生にとって望ましい経験となる教育実習内容の検討

- (4) 幼稚園独自の教育の強化
家庭・地域・医療や福祉等の関係機関との連携推進、特別支援教育に関する外部研修への参加、支援CO・養護教諭を中心とした園内支援体制の確立

- (5) 健康・安全管理体制の強化
地域との連携体制の強化、災害発生時の安全対策の検討・実施

- (6) 教員の資質向上
大学教育学部、短期大学幼児教育学科教員との合同研修会をはじめとする研修等の充実

(7) 学園内外との連携の充実

- ① 大学祭への参加
- ② 大学・短期大学の教員・学生による科学遊びや絵画・造形指導、英語活動、スポーツ指導
- ③ 外部講師による課内音楽指導

Ⅲ. 経営計画

1. 令和6年度（令和7年度入試）学生・生徒・園児募集

各校・園における入学定員を次の通りとする。

（単位：人）

学校・幼稚園名		入学・募集定員	計
大阪成蹊大学	経営学部	260	980 ※1
	経営学科	140	
	スポーツマネジメント学科	120	
	芸術学部	240	
	造形芸術学科	240	
	教育学部	240	
	教育学科 初等教育専攻	170	
	中等教育専攻	70	
	国際観光学部	80	
	国際観光学科	80	
	看護学部	80	
	看護学科	80	
	データサイエンス学部	80	
	データサイエンス学科	80	
大阪成蹊大学大学院	大学院 教育学研究科	5	5
びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ学部	360	360
	スポーツ学科	360	
びわこ成蹊スポーツ大学大学院	大学院 スポーツ学研究科	10	10
大阪成蹊短期大学	生活デザイン学科	60	370 ※2
	調理・製菓学科	100	
	栄養学科	40	
	幼児教育学科	100	
	経営会計学科	70	
大阪成蹊女子高等学校			400
大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園			70
学園合計			2,195

※1 収容定員に係る学則変更の認可申請中

※2 収容定員に係る学則変更の届出および学生募集停止の報告予定